

デイジー教科書提供の取り組み (デイジーによる「読み」の支援)

音声教材の効率的な製作方法に関する調査研究事業
令和元年(2019年)

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会

公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会は、平成20年度からボランティア団体等と協力して小中学校の発達障害など読みの困難がある児童生徒にデイジー教科書の製作・提供を行っています

文字がにじむ

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんか？
写し取るのに時間がかかる子、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことと思

文字がゆらぐ

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんか？
写し取るのに時間がかかる子、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことと思

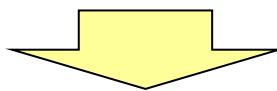
鏡文字になる

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんか？
写し取るのに時間がかかる子、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことと思

文字がかすむ

思い出して下さい。あなたのクラスにこんな子は、いませんか？
写し取るのに時間がかかる子、ノートのマスから文字がはみ出してしまったり、本読みがつまみつきでしか読めない子。きつといたことと思

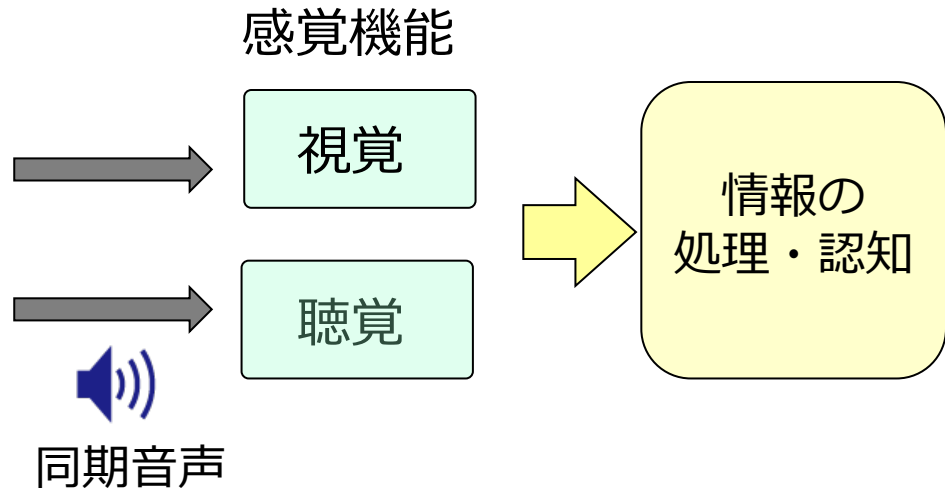
さらに見え方の問題だけでなく、「記号」である文字を「音」として認識することが困難だったり、名称を想起する速度が遅いことによって起こると言われています。



- 逐次読みになってしまう
- 勝手読みをしてしまう
- 単語の切れ目が判らない
- 漢字や熟語が読めない



兵十がいなくなると、ごんは、びよいと草の中からとび出して、びくのそばへかけつけました。ちよいと、いたずらがしたくなかったのです。ごんはびくの中の魚をつかみ出しては、はりきり網のかかっているところより下手しよこの川の中を目掛けて、ほんほんなげこみました。どの魚も、「とほん」と音を立てながら、にこった水の中へもぐりこみました。



現状（紙）

読むこと自体に一生懸命で
内容が入ってこない

ICT（タブレット）

読みの負担が減って
内容の理解に集中できる

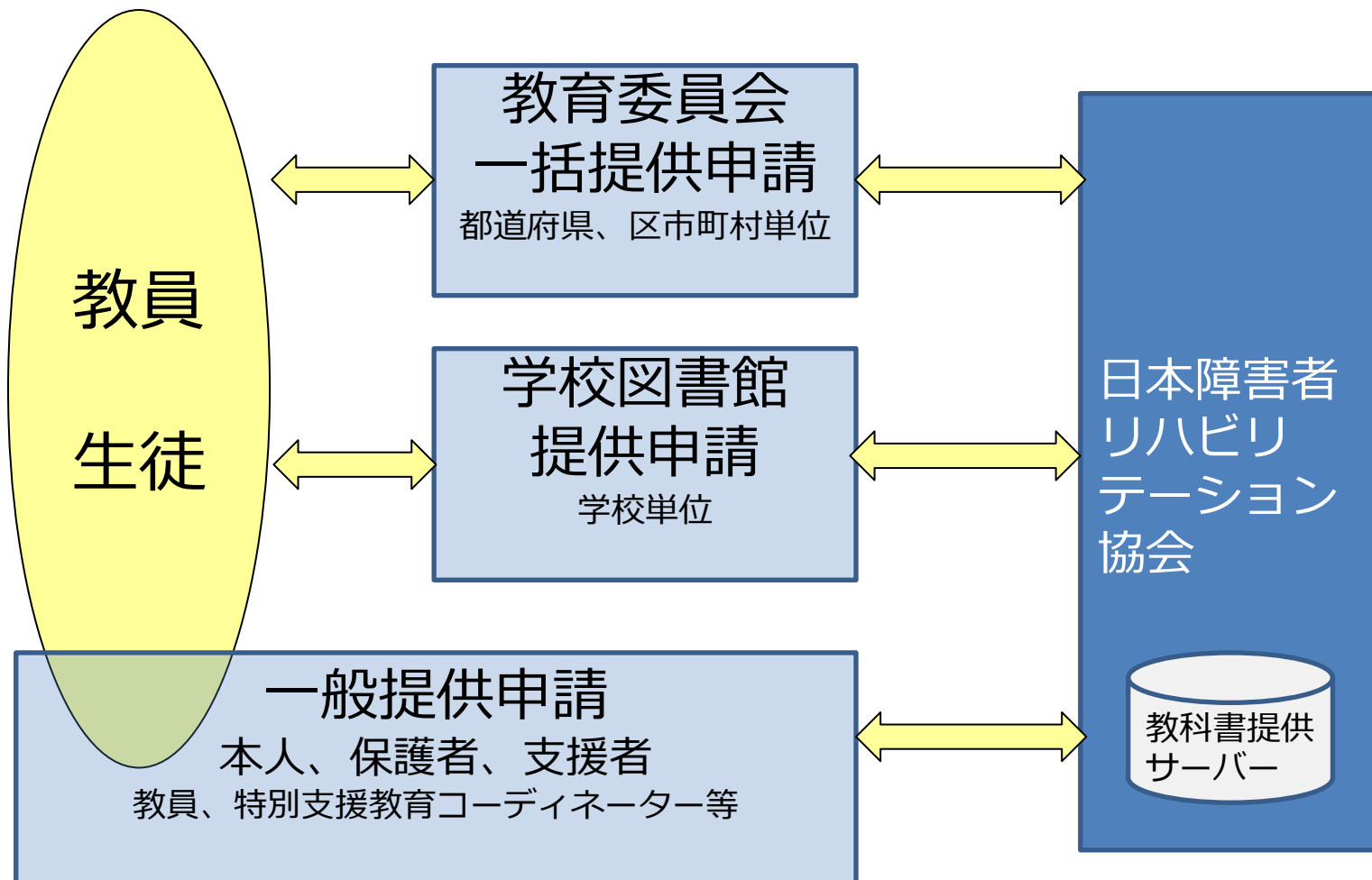
- ・ハイライトで場所が分かる
- ・音声で効果的に伝わる

- ハイライトされたテキストと、音声、画像が同時に表示され、どこを読んでいるかが確認できる
- 学習の進め方を考慮した順番に並べなおしてあるので、図や表が多い教科書も連続して再生すれば学習できる
(拡大や縮小しても読み順で迷わない)
- 目次や見出しをつかって、読みたいページに移動ができる
- 教科書と同じルビに加えて、総ルビ版を提供
- 再生ソフトの機能により、個々のニーズに合った読み方が可能
(文字の大きさや色、背景色、再生速度等)

- 教科書
 - 小学校
296冊（検定教科書数319冊：92%）
 - 中学校
140冊（検定教科書数159冊：88%）

- 申請者数
 - 一般提供申請
4,985名（H30年度末:7,090名）
 - 教育委員会、学校図書館申請
113団体（H30年度末:134団体 2,949名）

デイジー教科書の申請、利用の流れ



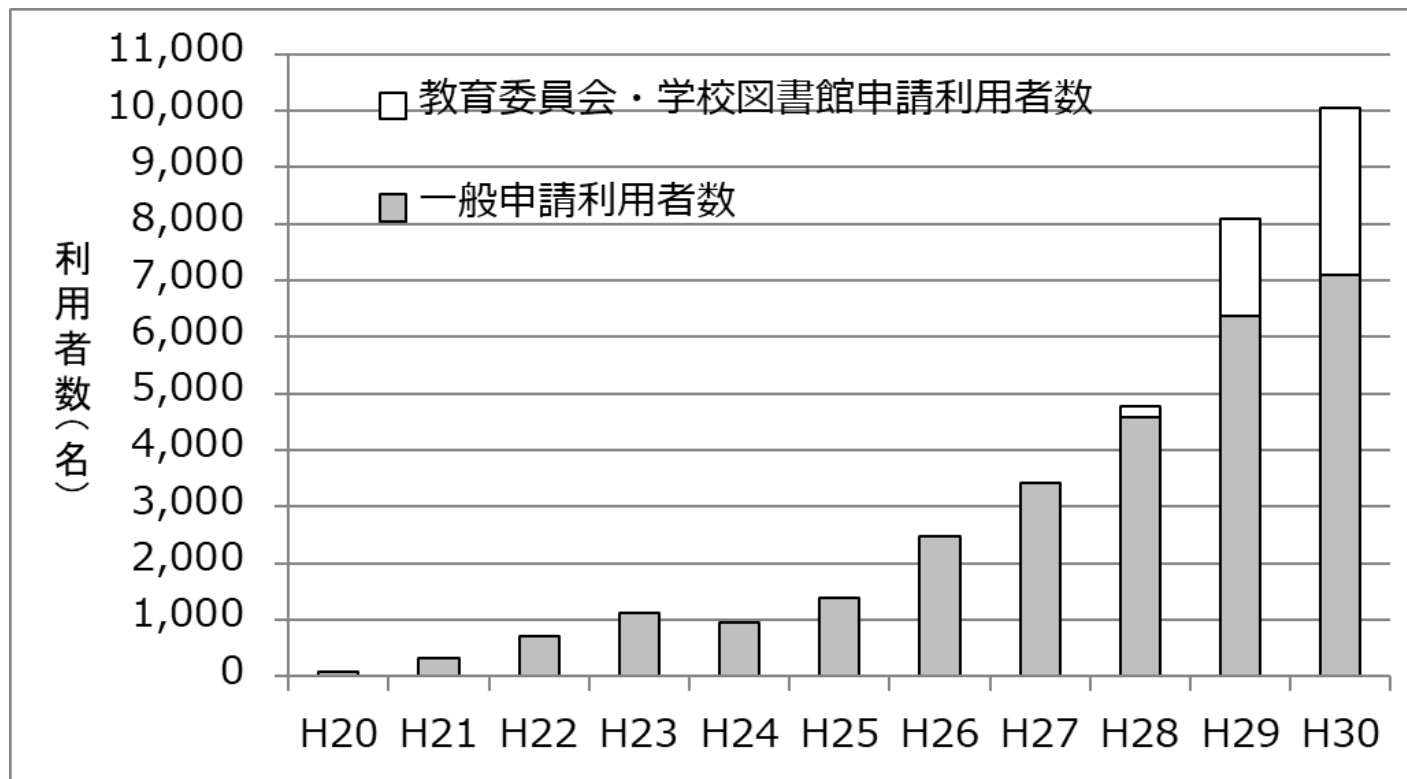
申請手続きはホームページ（スマホもOK）で！⇒デイジー教科書で検索

利用場所	使い方の例
通常の学級	<ul style="list-style-type: none">• 丸読み、音読• グループ学習
通級指導教室 特別支援学級	<ul style="list-style-type: none">• 新単元の予習• 音読• 漢字の読み確認• テスト、ドリル• タブレット操作習得
家庭	<ul style="list-style-type: none">• 宿題の音読• 予習

一般利用者アンケート結果より

- 読みがスムーズになった
- 文節の区切りが上手になった
- 読み間違いが少なくなった
- 読むことへの抵抗感が減った
- 文章への理解度が良くなった
- 読める漢字が増えた
- 自己肯定感や自尊感情が増した

デイジー教科書の利用申請の推移



平成29年度

教育委員会、学校図書館申請：1,715名

一般申請（保護者、教員）：6,378名

合計：8,093名

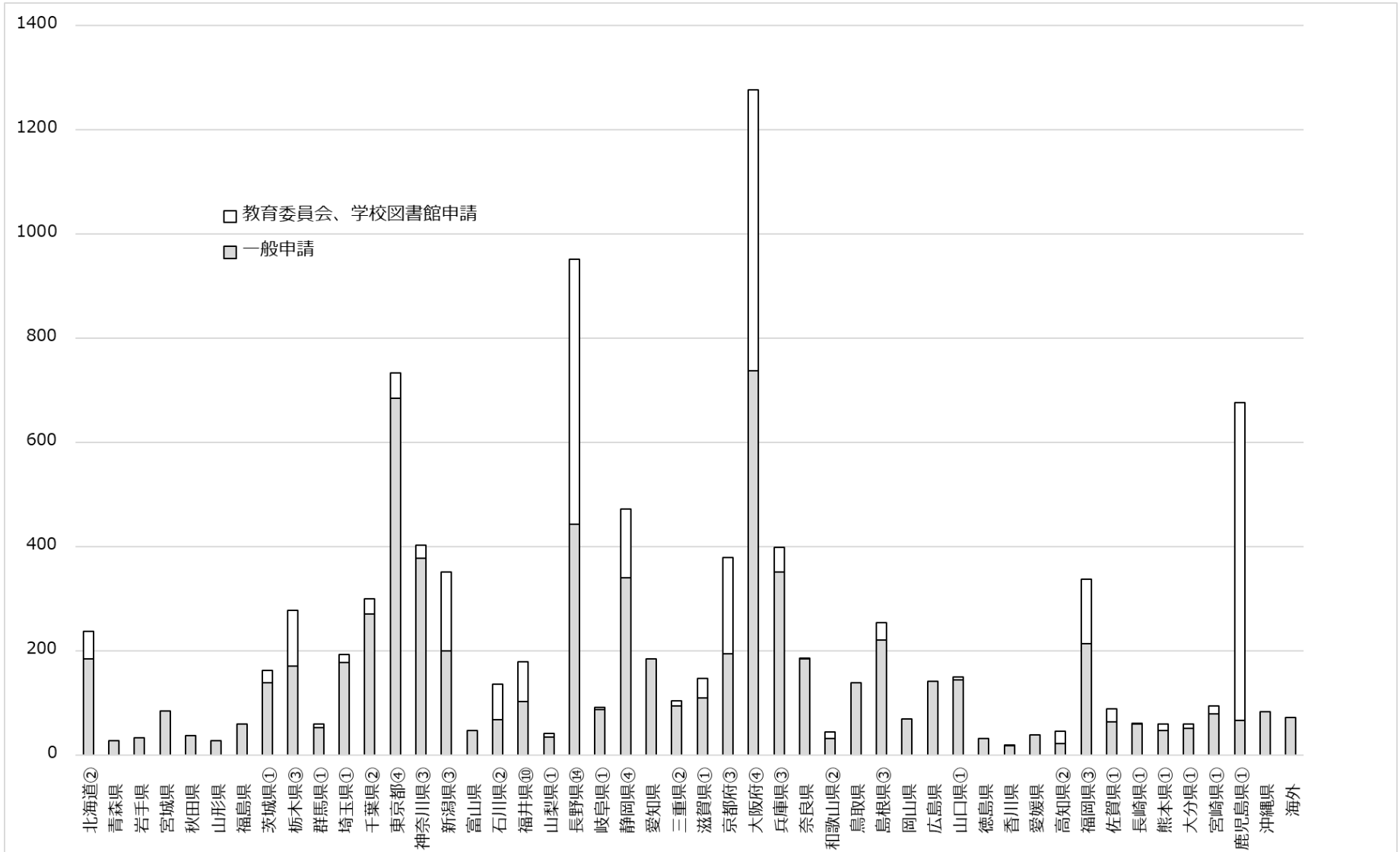
平成30年度

2,949名

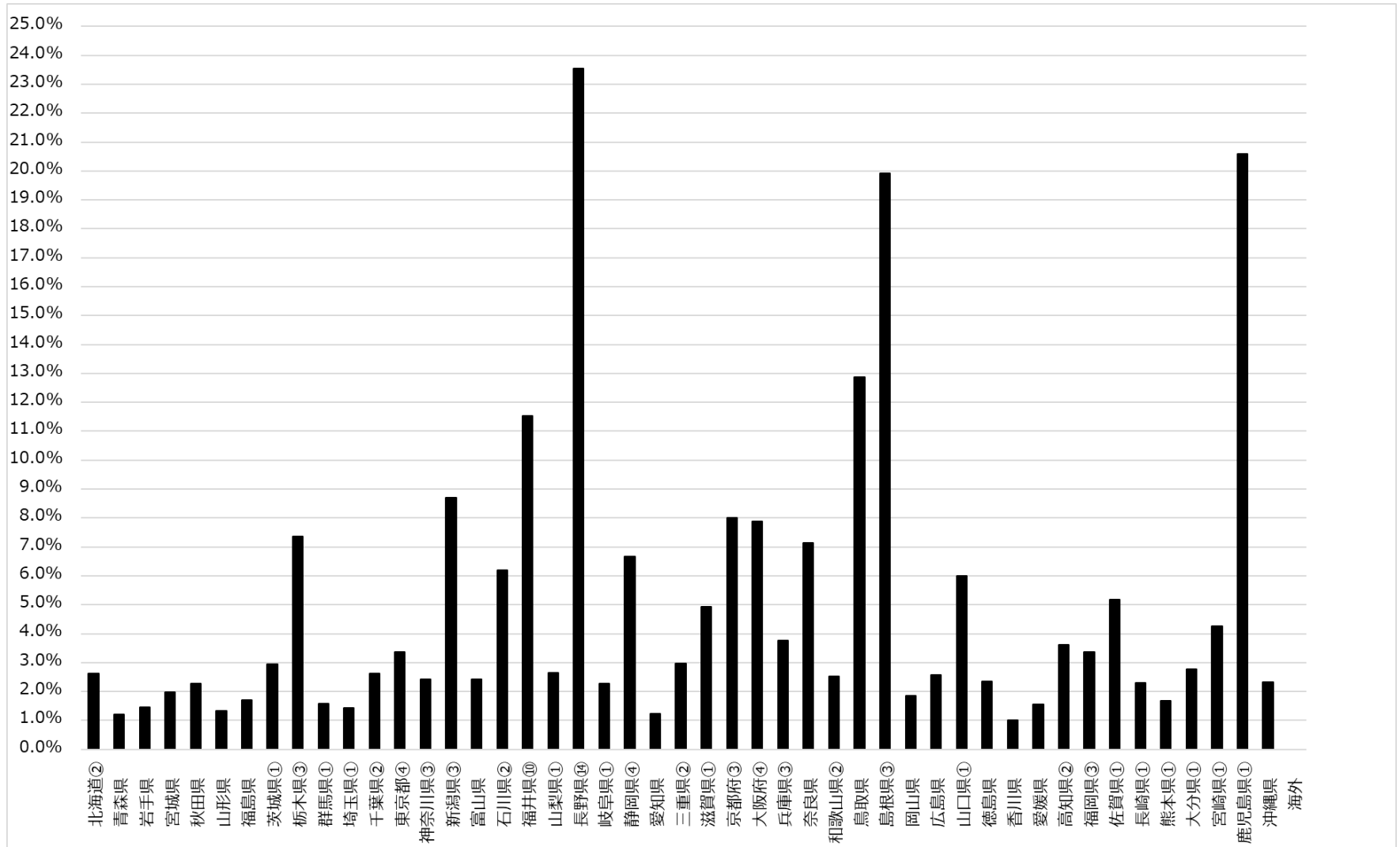
7,090名

10,039名

平成30年度 都道府県別利用者数

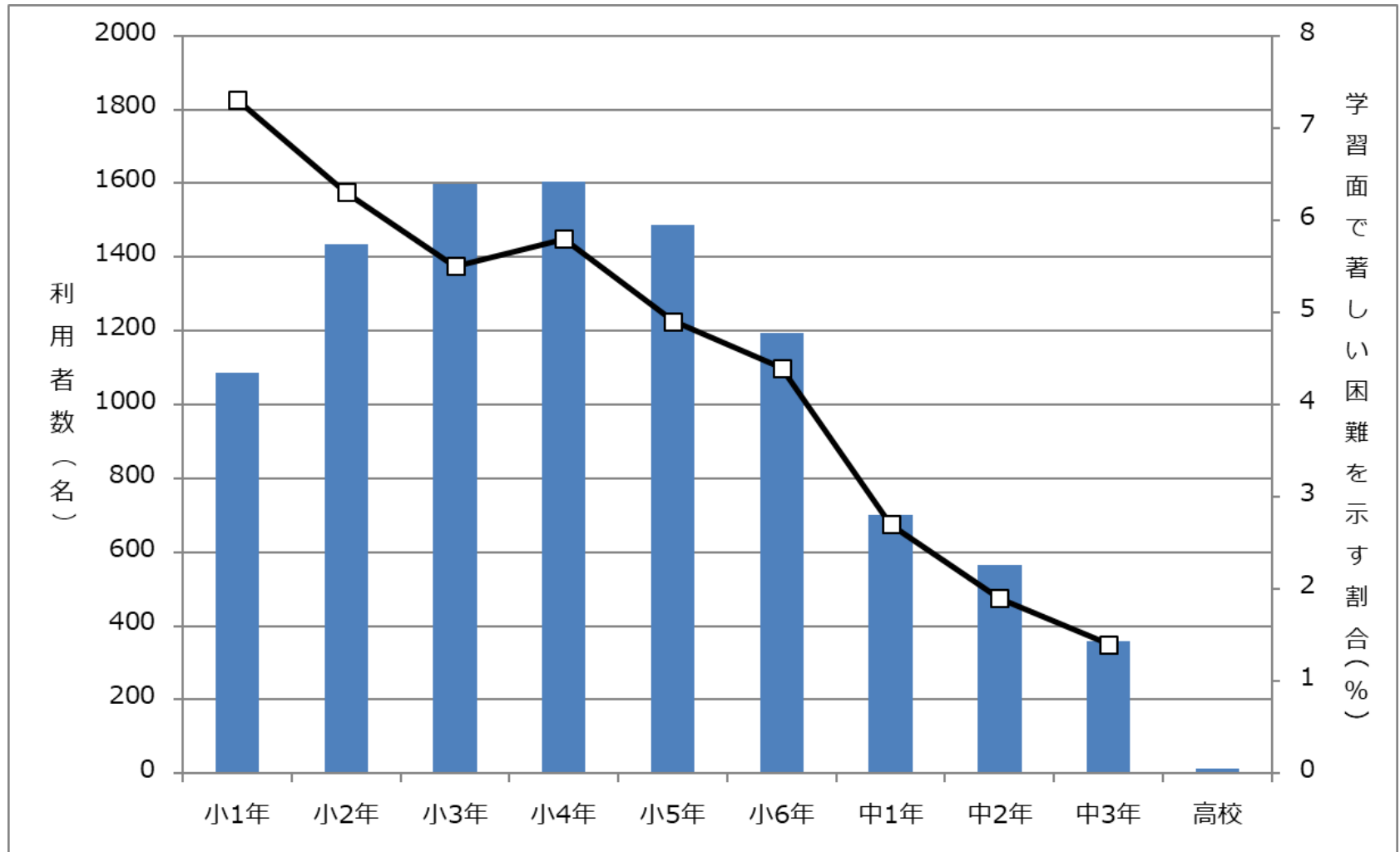


平成30年度 都道府県別普及率



普及率 = 分子：デイジー教科書利用者数、分母：児童生徒の総数 × 2.4%

平成30年度利用者学年内訳



平成24年度12月「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査について」より学習面で著しい困難を示す割合を参考に提示